立田山のコウモリについて

安田　雅俊[1, 2)]

[1)]熊本野生生物研究会，[2)]森林総合研究所九州支所

Bat records from Mt. Tatsutayama in Kumamoto City

Masatoshi Yasuda[1, 2)]

[1)]Kumamoto Wildlife Society, [2)]Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

はじめに

立田山は熊本市の中央区と北区にまたがる標高151.6 m の低山で，周囲を住宅地や道路に囲まれた都市緑地である．植生は照葉樹林二次林を主とするが，植林地や竹林，耕作地，草地等もある程度の面積を占めている．1971年頃，宅地開発計画に反対する市民運動が行われ（無署名 1971），その後，生活環境保全林「立田山憩いの森」として整備された．立田山の哺乳類相については安田（2012），安田（2021）が報告しているものの，翼手目の情報は限られていた．本稿では立田山から記録のあるコウモリ類（翼手目）について，最近の洞穴調査の結果ならびに文献調査，標本調査，聞き取り等で得られた情報を整理して報告する．分類および学名，和名は川田ほか（2021）に従った．

立田山の人工洞穴の所在については河原畑濃氏から情報を得た．これらの洞穴が掘削された母岩の名称については熊本博物館の南部靖幸氏の鑑定によった．熊本県博物館ネットワークセンターの竹原千晶氏，中薗洋行氏には収蔵標本の調査の際に対応いただいた．熊本博物館の収蔵標本の情報は清水稔氏より得た．熊本県希少野生動植物検討委員会検討委員（哺乳類部会）の坂田拓司氏と坂本真理子氏からは本稿に対して有益なコメントを賜った．

方　法

調査地は立田山南麓に位置する通称「五高の森」周辺の人工洞穴である（熊本県熊本市中央区黒髪８丁目；図１）．危険防止の観点から洞穴の位置は明示しない．2012年12月～2022年３月，凝灰角礫岩に掘削された，近接する３つの人工洞穴（以下，洞穴Ａ，Ｂ，Ｃ；北緯32.82度，東経130.74度，標高50 m）を不定期に計11回，日中に調査した．洞穴間の最大距離は約170 m であった．それぞれの人工洞穴は複数の入口を持ち，奥行は洞穴ＡとＢで短く，やや東に離れた洞穴Ｃでより長かった．洞穴内部の高さは約２～３ m であった．すべてのコウモリの種は観察と写真撮影により同定し，個体の捕獲は行わなかった．

図１　調査地

熊本県内の哺乳類に関する文献資料や標本の情報を収集した．文献の引用にあたっては漢数字をアラビア数字に置き換えた．標本調査では，熊本県博物館ネットワークセンター収蔵資料データベース（http://jmapps.ne.jp/kmnc/index.html；2021年12月22日確認）を参照した後，立田山産の標本を確認した．

結果と考察

洞穴調査

小型コウモリ類３種（キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*，コキクガシラコウモリ *R. cornutus*，ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus*）が記録された．調査日と観察された種および個体数は以下の通りであった．なお，同一日に３つの洞穴で観察されたコウモリの個体数の合計値を示した．以下に「飛翔個体あり」と記した２回を除き，調査時にコウモリは冬眠状態にあったので，調査時間内（おおむね１時間）にコウモリが洞穴間を移動したとは考えられず，同一個体を重複してカウントした可能性はきわめて低いからである．

2012年12月３日　キクガシラコウモリ５頭．
2013年４月８日　キクガシラコウモリ35頭，ユビナガコウモリ１頭．
2013年４月22日　キクガシラコウモリ36頭，ユビナガコウモリ１頭．
2013年５月８日　キクガシラコウモリ約40頭．飛翔個体あり．
2013年12月10日　キクガシラコウモリ52頭．
2013年12月26日　キクガシラコウモリ57頭（洞穴Ｃのみ調査）．
2014年２月24日　キクガシラコウモリ29頭，ユビナガコウモリ１頭（洞穴Ｃのみ調査）．
2014年４月10日　キクガシラコウモリ40頭，ユビナガコウモリ１頭．
2014年11月６日　キクガシラコウモリ約10頭．飛翔個体あり．
2015年12月11日　キクガシラコウモリ43頭，コキクガシラコウモリ２頭．
2022年３月９日　キクガシラコウモリ60頭，ユビナガコウモリ１頭．

文献調査

以下の３編の文献が確認された．

（１）吉倉（1969）：立田山から採集されたコウモリとしてノレンコウモリ *Myotis bombinus* が記載されていた（詳細は後述）．

（２）吉倉（1984）：ユビナガコウモリの熊本県内の産地のひとつとして立田山が挙げられていた．

（３）吉倉（1988）：ノレンコウモリの項に「県内では，熊本市立田山の防空壕跡からメス２匹が得られただけのようである」と記されていた．

標本調査

採集地が立田山と書かれたノレンコウモリの液浸標本が，熊本県博物館ネットワークセンターに所蔵されていた（標本番号 NB11-000322；2022年４月20日に現物を確認）．このラベルには，上から順に，「熊本大学理学部生物学教室」「目名1452　科名」「ノレンコウモリ」「採集地　立田山」「採集日　1967年４月24日　採集者　相原」と記されていた．上記の下線部は鉛筆による手書きで，それ以外は印刷された文字であった．この個体の前腕長は左39.0 mm，右39.1 mm であった．熊本博物館には立田山の翼手目の標本は収蔵されていなかった．

以上の結果を種ごと整理すると以下のようになる．

（１）キクガシラコウモリ

本種は，11月上旬～５月上旬に実施した洞穴調査においてもっとも高頻度に確認された種で（11回の調査中11回），観察された個体数は最小５頭，最大60頭であった．冬期には洞穴の天井や壁面から懸垂した冬眠状態の個体が見られたが，温暖な日には観察者が入洞するとコウモリが目覚めて飛翔するため，個体数を正確に数えることができなかった．

（２）コキクガシラコウモリ

本種は11回の調査のうち１回，洞穴内に単独で懸垂した個体が観察された．出現時期は2015年12月のみであった．先行研究には生息情報がなく，過去に立田山から記録されたことがないとみられる．

（３）ユビナガコウモリ

本種は11回の調査のうち計５回，洞穴内に単独で懸垂した個体が観察された．出現時期は２月下旬～４月下旬の間であった．立田山では早春にのみ洞穴を利用するのかもしれない．

（４）ノレンコウモリ

ノレンコウモリは1960年代の採集記録（吉倉 1969）があるが，今回の洞穴調査では確認されなかった．立田山における本種の再確認は今後の課題である．

なお，吉倉（1969）はノレンコウモリについて以下のように記している．ただし，原文では，「キュウシュウノレンコウモリ *Myotis nattereri bombinus*」とあり，ヨーロッパノレンコウモリ *Myotis nattereri* の亜種扱いとなっている．

このコウモリはイエコウモリ位の大きさで，洞穴にすんでいる．初めアンダーソン氏の一行が，宮崎県田野村で，明治38年４月29日から５月６日まで滞在中，５頭採集したものを，トーマス氏（1905）が報告した．

以来久しく九州の特産とされていたが，昭和26年８月25日，細野淳氏が長野県で2頭採集し，これを今泉吉典氏（1954）が報告し，その後，山口，栃木，岩手など本州の各地からも知られるようになった．ノレンコウモリは欧亜大陸にひろく分布していて，アムール，満州，朝鮮にもいる．九州では基産地以外今まで採集の記録がなかったが，谷口育英氏が昭和41年11月４日立田山で１頭を採集，ついで化血研の所員も翌年４月24日立田山の洞穴で，ユビナガコウモリとともに１頭を採集し，熊本が第二の産地として記録されることになった．

すなわち吉倉によると，1966年11月４日と1967年４月24日に各１頭のノレンコウモリが立田山において採集された（それぞれ1966年標本，1967年標本と呼ぶ）．これら２頭のうち，採集年月日と採集地からみて1967年標本とみられるものが今回の標本調査で発見された．坂本真理子氏によると，この標本は2013年には熊本市内の環境調査会社の倉庫に保管されていた．その後，現在の収蔵場所である熊本県博物館ネットワークセンターに移管されたとみられる．今後は1966年標本についても標本の所在を調査する必要がある．

引用文献

無署名（1971）公共緑地として保存を．立田山問題で県・市に要望．自然と文化を愛する会・会報（1971）：22-25.

川田伸一郎・岩佐真宏・福井 大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽 創・姉崎智子・鈴木 聡・押田龍夫・横畑泰志（2021）世界哺乳類標準和名リスト2021年度版.（URL：https://www.mammalogy.jp/list/index.html）

安田雅俊（2012）立田山に生息する哺乳類．森林総合研究所九州支所年報（24）：24-25.

安田雅俊（2021）立田山におけるイノシシ・ニホンジカ・ニホンザルの生息状況．森林総合研究所九州支所年報（33）：17-18.

吉倉 眞（1969）注目すべき県産小獣．自然と文化を愛する会・会報（1969）：10-12.

吉倉 眞（1984）．熊本の陸生哺乳動物（1）研究史と陸生哺乳動物目録．土竜（11）：27-55.

吉倉 眞（1988）．熊本の陸生哺乳動物（2）分布と実態．土竜（13）：100-121.

受付日：2022年４月20日　　受理日：2022年５月10日

連絡先：安田雅俊
〒860-0862　熊本県熊本市中央区黒髪4-11-16
（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所
電子メール myasuda@ffpri.affrc.go.jp